

2017（平成29）年度入学試験問題（推薦Ⅱ）

小論文

教育学部学校教育教員養成課程

教科教育専攻社会科教育専修

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、120分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問題 次の資料を読んで以下の各問に答えなさい。

[資料 中西新太郎「いま生きている場を見つめ直せる歴史感覚とは」, 2015年6月]

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

〔中西新太郎「いま生きている場を見つめ直せる歴史感覚とは」, 教育科学研究会編『教育』
2015年6月号, かもがわ出版, 17～26ページ, 抜粋・一部改変〕

問 1

この資料の筆者は、下線部①で「いまこの世界で紡がれている自らの生と地続きの現実として過去をとらえ返す感覚の薄さ」と指摘し、下線部②で「若年層の歴史感覚、とりわけその薄さを招いた記憶組織の特質とはどのようなものであるのか」として、二つのポイントに分けている。これはどのような主張となるのか、それぞれ関連づけて要約しなさい。

(400字程度)

問 2

筆者は、下線部③で「脱戦後」化がすすんだ70年代から80年代にかけ、歴史的現実を自分たちの身に引きつけてとらえさせる歴史教育の試みが行われた。歴史の現場に子どもを立たせる安井俊夫の試み〔教育実践〕とまとめている。この安井実践がどのような特質をもったものであったのか、これと比較されている教育実践を対比しつつ、「若者の立ち位置」を踏まえて、その特質について論じなさい。

(600字程度)

問 3

下線部④で「歴史感覚の薄さ（歴史的現実の忌避）を克服するためには、「これが正しい歴史認識」という中味の呈示だけでは足りない」と述べている。そのために必要な事柄とはなにか、筆者の考えをまとめた上で、あなたの考えを述べなさい。

(800字程度)

2017（平成29）年度入学試験問題（推薦Ⅱ）

小論文

教育学部 学校教育教員養成課程

教科教育専攻 社会科教育専修

出題の意図

教科教育専攻社会科教育専修は、教育学部アドミッション・ポリシーに記されているように、「教科に関する深い知識や緻密なカリキュラム構成力に支えられた児童・生徒を惹きつける授業力を前提としつつ、さらには他者との対話能力、新しい教育課題に向き合いながら学びの場を創出する能力、学校全体としての教育活動を充実させる優れたコーディネート能力」を求めている。

そこで本専修の入学試験問題は、第一に、基礎的な一般的力量として、資料の読解力と自分の意見を論述する力を問うことをねらいとしている。

第二に、「沖縄唯一の教員養成学部として、沖縄の歴史的・地理的・文化のおよび社会的特性を活かし、持続可能な地域社会の形成に主体的に参加し貢献できる小学校及び中学校教員など、沖縄を中心にこれからの教育界を担う人材を育成」することを挙げているとおり、沖縄・島嶼地域をとりまく文化的・政治的・経済的状況やそこに生起する諸問題の基本的なとらえ方と、それらの問題に対する関心度をはかることを意図している。これは、それらの問題に関する知識の多寡ではなく、資料からその問題をめぐって追究すべき論点は何であるかを抽出し、その論点についての自分自身の判断を整理して論述できるかどうかを問うものである。